

令和 5 年 2 月 2 日
道路局 国道・技術課

道路行政ニーズを実現するためFS研究を 3 件採択します

○新道路技術会議において、道路行政ニーズを実現するためFS(フージビリティスタディ)研究として 3 件採択することとしましたのでお知らせします。

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合し、道路政策の質を一層向上させるため、平成 16 年 10 月より新道路技術会議(委員長:朝倉 康夫 東京工業大学名誉教授、神戸大学名誉教授)を設置しています。

今年度からFS研究・短期研究を立ち上げ、通年募集し年間 4 回、合計 10 件程度を採択することとしています。

今回、11 月末までに応募のあった 4 件について新道路技術会議において審議し、別紙の 3 件を採択することとしました。

※F S 研究：本格研究の実施に向けた実行可能性調査として実施するもの

短期研究：短期的に実施可能な小規模な研究開発

なお、令和4年度のFS研究・短期研究は今後も引き続き募集しています。

<応募の審査時期>

応募	審査
12月～2月	3月

(次回)

<応募要領等>

- FS 研究・短期研究 募集要領及び提案様式

(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/shinki/koubo.html>) 国交省 HP

- 道路行政ニーズ

(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>) 国交省 HP

<問い合わせ先>

国土交通省道路局 国道・技術課 松實、豊田(内線 37862、37855)

(代表) 03-5253-8111 (直通) 03-5253-8498

＜ソフト分野＞

FS/短期	研究テーマ名	提案概要	研究代表者名
FS	計画道路の防災機能類似性評価手法についての技術研究開発	本研究では新規計画道路が与える防災機能向上効果を多面的に評価し、計画道路間の類似性評価手法を開発する。具体的には、多数存在する防災機能指標相互の相関関係を分析、計算負荷の大きいものは計算負荷の小さい他指標や他の属性で近似する手法を検討し、多面的評価に必要となる全体の計算負荷の軽減を図る。これらの検討に加えて多面的な防災機能向上効果に基づいて新規計画道路間の類似性を判定する手法開発を目標とする。	北海道大学大学院 工学研究院 准教授 杉浦 聡志

＜ハード分野＞

FS/短期	研究テーマ名	提案概要	研究代表者名
FS	路面設置型非接触給電コイルについての技術研究開発	非接触給電コイルを舗装路面に設置するため、コイルケースの機械的特性、舗装路面との一体化方法、舗装路面として具備すべき機能について検討を行う。この技術により、既設舗装の構成を変更することなく短時間で設置可能な非接触給電コイルの開発を目指す。	東亜道路工業(株) 技術営業部長 阿部 長門
FS	UAV-SfM および LiDAR を活用した雪庇計測に関する技術研究開発	本研究は、雪崩予防柵が設置された道路法面を対象に UAV-SfM および LiDAR を活用した雪庇計測に関する技術開発を目的とする。また雪庇表面にマーカーを配置し追跡することにより、雪崩危険度判定技術の提案を行うものである。	北見工業大学 地域と歩む防災研究センター 准教授・副センター長 白川 龍生